

# 水槽内自然産卵法によるワカサギ増殖技術の評価と実用化

福島県内水面水産試験場 調査部

部門名 水産業-内水面(増養殖)-内水面漁業、ワカサギ  
 担当者 紺野 香織、佐久間 徹

## I 新技術の解説

### 1 要旨

ワカサギは冬期間の遊漁対象として人気が高まっており、高冷地の湖沼では重要な遊漁資源である。従来のワカサギ増殖は北海道等からの種卵の移入により賄ってきたが、近年ワカサギの種卵は全国的に不足している。そこで、自県種卵の生産量増加を図るため、水槽内自然産卵法を用いた増殖技術の実用化について検討した。

#### (1) 水槽内自然産卵法の検討

檜原漁業協同組合は産卵親魚の十分な数の確保が自湖産ではできないため、北海道等他県からの受精卵を移入することで放流用種卵の数を充足させていた。しかしこれには出荷日、出荷卵数がこちらの要望に合致しないこと、高価であること、また、発眼率、ふ化率が低いという問題があった。このため、神奈川県芦ノ湖で行われていた水槽内自然産卵法を導入、改良し、自湖産種卵のふ化率向上を行った(図1)。

#### (2) 発眼率・ふ化率調査

発眼率・ふ化率調査では、網走湖産の卵(搾出法)の発眼率は29.3~47.8%、ふ化率は29.3~37.4%、阿寒湖産の卵(搾出法)の発眼率は69.3%、ふ化率は67.6%、檜原湖産の卵(水槽内自然産卵法)は発眼率92.7%、ふ化率92.4%であり、水槽内自然産卵法によって得た卵の発眼率・ふ化率は、搾出法による卵より高かった(表1)。

#### (3) 増殖事業への導入

水槽内自然産卵法の増殖事業への導入は、檜原漁業協同組合で平成18年度から行われている。この方法により平成21年度の採卵数は7,549万粒と、総放流卵数の14.9%を占めることとなった(表2)。

## 2 期待される効果

水槽内自然産卵法の導入は、自県産卵の生産量の増加、ふ化率の高い良質卵の増加に繋がる。

## 3 適用範囲

ワカサギの増殖に係わる県内の漁業協同組合。

## 4 普及上の留意点

採卵水槽、用水、用水管理等の施設整備が必要である。

## II 具体的データ等

表1 採卵法別発眼率・ふ化率(檜原湖放流卵)

採卵法	卵産地	産卵基質	収容日	発眼率(%)	ふ化率(%)
搾出法	網走湖	キンラン	22.4.19	29.3~47.8	29.3~37.4
搾出法	阿寒湖	キンラン	22.4.23	69.3	67.6
水槽内自然採卵法	檜原湖	キンラン	22.5.12	92.7	92.4

※網走湖産は到着直後、阿寒湖産はふ化場水槽収容後2週間後に場内の恒温器に収容した。

表2 水槽内自然産卵数が総放流卵数に占める割合(檜原湖)

年度	総放流卵数 (万粒)	水槽内自然産卵数 (万粒)	水槽内自然産卵数 の割合(%)
18	47,708	4,708	9.9
19	33,221	6,221	18.7
20	92,328	1,628	1.8
21	50,649	7,549	14.9

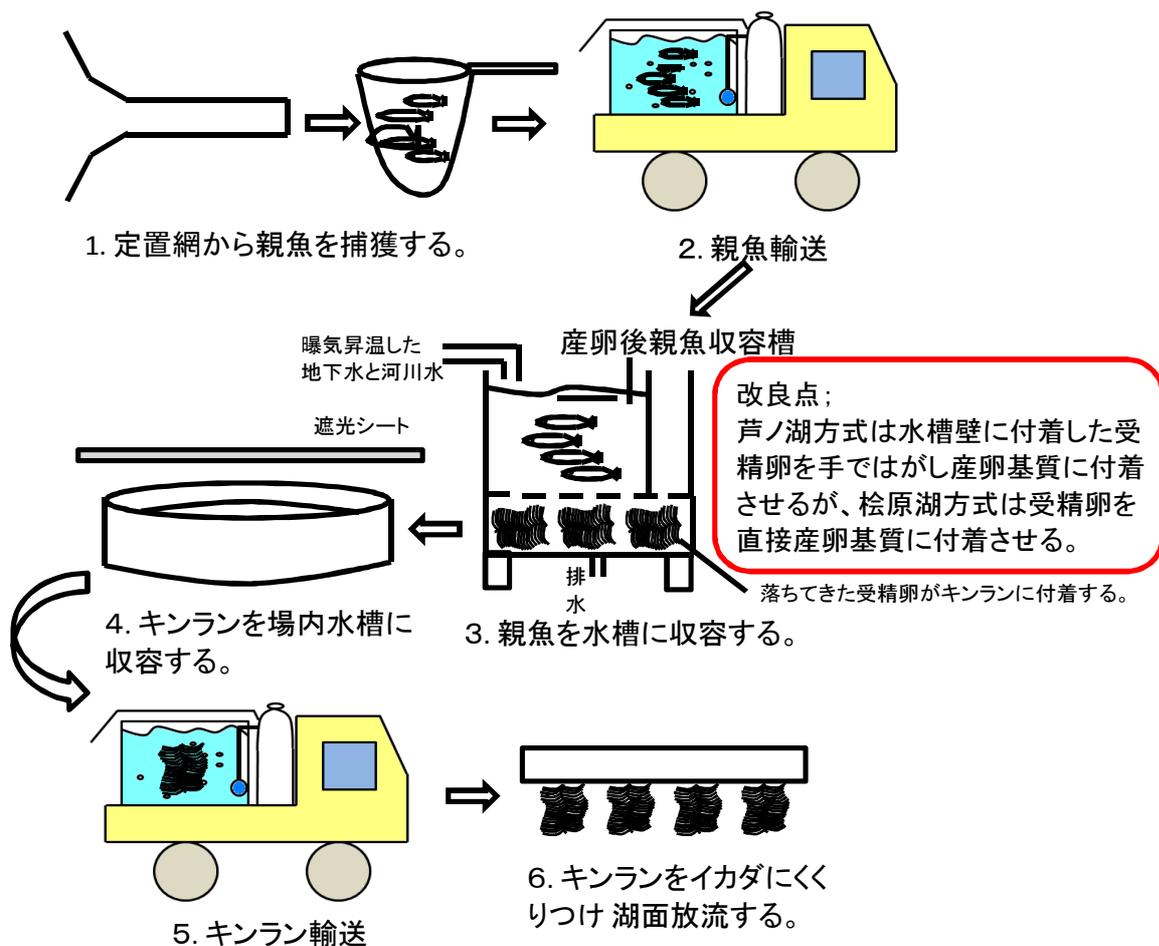


図1 水槽内自然産卵から放流までのながれ



写真1 自然産卵用水槽



写真2 水槽内のワカサギ親魚

### Ⅲ その他

#### 1 執筆者

紺野 香織、佐久間 徹

#### 2 研究課題名

水産資源の増殖技術に関する研究

#### 3 主な参考文献・資料